



令和5年12月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和5年5月12日

上場会社名 株式会社 トーア紡コーポレーション

上場取引所 東

コード番号 3204 URL <https://www.toabo.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 渡

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経理部長 兼 事業管理部長 (氏名) 竹川 宗一郎

TEL 06-7178-1158

四半期報告書提出予定日 令和5年5月15日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和5年12月期第1四半期の連結業績(令和5年1月1日～令和5年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
5年12月期第1四半期	4,547	14.6	200	105.4	185	103.9	103	193.9
4年12月期第1四半期	3,966	14.4	97	32.9	91	20.6	35	42.9

(注) 包括利益 5年12月期第1四半期 182百万円 (29.7%) 4年12月期第1四半期 259百万円 (14.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
5年12月期第1四半期	11.57	
4年12月期第1四半期	3.94	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
5年12月期第1四半期	35,810	11,831	33.0	1,325.76
4年12月期	32,911	11,746	35.7	1,316.22

(参考) 自己資本 5年12月期第1四半期 11,823百万円 4年12月期 11,738百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
4年12月期		0.00		11.00	11.00
5年12月期					
5年12月期(予想)		0.00		12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和5年12月期の連結業績予想(令和5年1月1日～令和5年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,200	1.2	550	6.5	480	9.1	280	4.0	31.40

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 有 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	5年12月期1Q	8,940,448 株	4年12月期	8,940,448 株
期末自己株式数	5年12月期1Q	22,342 株	4年12月期	22,342 株
期中平均株式数(四半期累計)	5年12月期1Q	8,918,106 株	4年12月期1Q	8,918,244 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、資料の発表日現在における将来の経済環境予想等の前提に基づいて作成されたものであり、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症における行動制限の解除により、社会経済活動は正常化に向けて動き出しました。しかしながら、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化などを背景としたエネルギー価格、原材料価格の高騰や主要各国の金融引締めによる急激な為替変動等、景気の先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは市場ニーズを先取りする高付加価値・高品質商品を提供する「暮らしと社会の明日を紡ぐ企業」として、競争力の強化と収益性の向上に取り組んでまいりました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は4,547百万円（前年同期比14.6%増）、営業利益は200百万円（前年同期比105.4%増）、経常利益は185百万円（前年同期比103.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は103百万円（前年同期比193.9%増）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。

[衣料事業]

衣料事業は、各種繊維を原料とする衣料用素材の製造・販売および制服の縫製加工、ニット製品の製造・販売を行っております。

新型コロナウイルスの影響により冷え込んでいた一般衣料の市況は、昨年来の回復基調を継続しております。

毛糸部門は、織糸に加えニットの需要も国内産地で回復し増収となりました。

ユニフォーム部門のスクール制服向け素材およびニット製品は、学生服メーカーの新入学生向け商品の生産が旺盛なため、引き続き好調に推移し増収となりました。

官公庁制服向けは調達量増加により増収、一般企業向け制服素材は堅調に推移しました。

テキスタイル部門は、需要回復の影響を受け、受注が好調、増収となりました。

毛糸製造販売を主体とする中国現地法人は、日本市場向けの受注回復により増収となりました。

この結果、売上高1,848百万円（前年同期比52.7%増）、営業利益125百万円（前年同期比341.5%増）となりました。

[インテリア産業資材事業]

インテリア産業資材事業は、自動車用内装材、住宅建材・排水処理資材・土木資材・緑化資材などさまざまな用途の産業用資材、インテリア関連製品、オレフィン系短繊維の製造および販売を行っております。

国内においては、新型コロナウイルスの影響が収まり、自動車産業は半導体不足の影響もかなり限られてきて生産販売数量も確保できました。

ポリプロファイバー部門は、自動車内装材用原綿も自動車販売数に合わせて増産、カーペット用原綿は展示会、イベント需要が増え増収増益となりました。

カーペット部門は、ホテル、オフィス、一般資材、ダストコントロール用途等すべての需要が戻り始め増収増益となりました。

特殊繊維部門は、金属繊維、カーボン繊維ともあまり振るわず減収となりました。

自動車内装材部門は、半導体・部品不足が落ち着き自動車生産台数も増え、原材料およびエネルギー代高騰の価格転嫁をできたことで増収増益となりました。

不織布部門は、土木、寝装防草、緑化関連が順調に推移し増収増益となりました。

自動車内装材製造販売の中国現地法人は、主に日系自動車会社に販売してありますが半導体不足、中国系電気自動車に売り負けて大きく生産量を落としており、減収減益となりました。

この結果、売上高1,807百万円（前年同期比14.8%増）、営業利益62百万円（前年同期比677.6%増）となりました。

[エレクトロニクス事業]

エレクトロニクス事業は、半導体・電子機器の製造および販売を行っております。

主力の電動工具向けコントローラーは、前年の巣ごもり需要の反動による減速とウクライナ侵攻長期化の影響による輸出の減少が重なり、大幅な受注減となりました。

電子デバイスは、落込みは少ないものの半導体不足が落ち着いた影響で受注減となりました。

この結果、売上高376百万円（前年同期比36.2%減）、営業損失5百万円（前年同期は営業利益7百万円）となりました。

[ファインケミカル事業]

ファインケミカル事業は、ヘルスケア関連薬品、電子材料用および工業用薬品の製造および販売を行っております。

電子材料分野は国内外でデジタル需要の落ち込みが激しく、一部で生産調整を強いられ減収となりました。ジェネリック医薬品分野は台頭著しい先発品メーカーの系列会社との競争激化で主力製品の受注が振るわず減収となりました。

この結果、売上高203百万円（前年同期比27.1%減）、営業損失8百万円（前年同期は営業利益17百万円）となりました。

[不動産事業]

不動産事業は、主に郊外型ショッピングセンター・ロードサイド店舗・オフィスの賃貸などを行っております。

ロードサイド店舗へ新規テナントが決まり増収となりましたが、光熱費の高騰と販売費の増加により減益となりました。

この結果、売上高227百万円（前年同期比0.7%増）、営業利益134百万円（前年同期比4.0%減）となりました。

[その他]

その他の事業は、自動車学校の運営、ヘルスケア商品の販売、洋菓子店の運営などを行っております。

自動車教習事業は、主力の高校生向けプランにより、普通車入校生を堅実に確保し若干の増収となりました。

ヘルスケア事業は、新型コロナウイルスの影響で停滞していた法人向けOEM化粧品の場合や東南アジア向け健康食品の輸出案件が動き始めました。また、ムサシノ製薬との協業開始により、今後はヘルスケア商品でのシナジー効果が期待できます。

この結果、その他の事業全体の売上高は83百万円（前年同期比1.6%減）、営業利益8百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末比2,898百万円増加し、35,810百万円となりました。その主な要因は、電子記録債権および受取手形及び売掛金、有形固定資産等の増加によるものであります。

負債は、前連結会計年度末比2,814百万円増加し、23,978百万円となりました。その主な要因は、長期借入金および短期借入金等の増加によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末比84百万円増加し、11,831百万円となりました。その主な要因は、その他有価証券評価差額金および為替換算調整勘定、繰延ヘッジ損益等の増加によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

令和5年12月期の業績予想につきましては、令和5年2月15日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和4年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和5年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,465	2,577
受取手形及び売掛金	2,190	2,614
電子記録債権	533	1,847
商品及び製品	2,261	2,379
仕掛品	725	672
原材料及び貯蔵品	1,782	1,969
その他	290	438
貸倒引当金	△18	△23
流動資産合計	10,231	12,477
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,816	2,000
機械装置及び運搬具(純額)	510	513
土地	17,051	17,143
リース資産(純額)	38	129
建設仮勘定	703	704
その他(純額)	97	109
有形固定資産合計	20,218	20,600
無形固定資産		
のれん	—	83
その他	68	76
無形固定資産合計	68	159
投資その他の資産		
投資有価証券	1,656	1,777
繰延税金資産	73	87
その他	711	755
貸倒引当金	△47	△48
投資その他の資産合計	2,392	2,572
固定資産合計	22,679	23,333
資産合計	32,911	35,810

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (令和4年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (令和5年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,580	1,838
短期借入金	5,683	6,808
未払法人税等	110	118
賞与引当金	—	125
その他	1,158	1,018
流動負債合計	8,533	9,909
固定負債		
長期借入金	6,565	7,884
繰延税金負債	4,389	4,426
退職給付に係る負債	1,150	1,134
長期預り敷金保証金	481	478
資産除去債務	44	44
その他	—	99
固定負債合計	12,631	14,069
負債合計	21,164	23,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,940	3,940
資本剰余金	3,570	3,570
利益剰余金	3,161	3,166
自己株式	△20	△20
株主資本合計	10,652	10,657
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	356	386
繰延ヘッジ損益	△40	△18
為替換算調整勘定	769	797
その他の包括利益累計額合計	1,085	1,165
非支配株主持分	8	8
純資産合計	11,746	11,831
負債純資産合計	32,911	35,810

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年1月1日 至 令和4年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年1月1日 至 令和5年3月31日)
売上高	3,966	4,547
売上原価	3,222	3,681
売上総利益	744	866
販売費及び一般管理費	646	666
営業利益	97	200
営業外収益		
受取利息	4	4
受取配当金	0	0
為替差益	14	0
助成金収入	10	1
補助金収入	—	5
その他	8	10
営業外収益合計	37	22
営業外費用		
支払利息	19	18
持分法による投資損失	8	4
従業員休業補償費	7	—
その他	7	13
営業外費用合計	43	36
経常利益	91	185
特別利益		
固定資産売却益	—	1
国庫補助金	22	—
特別利益合計	22	1
特別損失		
固定資産廃棄損	0	0
固定資産売却損	—	0
固定資産圧縮損	21	—
災害による損失	0	0
特別損失合計	22	1
税金等調整前四半期純利益	90	185
法人税、住民税及び事業税	82	111
法人税等調整額	△27	△28
法人税等合計	55	82
四半期純利益	35	102
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	0	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	35	103

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年1月1日 至 令和4年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年1月1日 至 令和5年3月31日)
四半期純利益	35	102
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	65	29
繰延ヘッジ損益	10	22
為替換算調整勘定	128	29
持分法適用会社に対する持分相当額	19	△2
その他の包括利益合計	224	80
四半期包括利益	259	182
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	259	183
非支配株主に係る四半期包括利益	0	△0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、当第1四半期連結会計期間において、ムサシノ製薬株式会社の全株式を取得したため、連結の範囲に含めております。また、みなし取得日を令和5年3月31日としているため、当第1四半期連結会計期間においては貸借対照表のみを連結しております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(単体納税制度への移行)

当社及び一部の国内連結子会社は、当第1四半期連結会計期間より、連結納税制度から単体納税制度へ移行しております。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 令和4年1月1日 至 令和4年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	衣料事業	インテ リア産業資 材事業	エレク トロニクス 事業	ファイ ンケミカル 事業	不動産 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	1,211	1,574	591	279	225	3,881	85	3,966	-	3,966
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	4	0	-	5	11	83	95	△95	-
計	1,211	1,579	591	279	231	3,892	168	4,061	△95	3,966
セグメント 利益	28	8	7	17	139	201	7	209	△111	97

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである自動車教習事業、ヘルスケア事業等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△111百万円には、セグメント間取引消去0百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△112百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 令和5年1月1日 至 令和5年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位: 百万円)

	報告セグメント						その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注) 3
	衣料事業	インテ リア産業資 材事業	エレク トロニクス 事業	ファイ ンケミカル 事業	不動産 事業	計				
売上高										
外部顧客への 売上高	1,848	1,807	376	203	227	4,463	83	4,547	-	4,547
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	4	0	-	5	11	89	101	△101	-
計	1,848	1,812	377	203	232	4,475	173	4,649	△101	4,547
セグメント 利益又は損 失(△)	125	62	△5	△8	134	308	8	317	△117	200

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである自動車教習事業、ヘルスケア事業等が含まれております。
2. セグメント利益又は損失の調整額△117百万円には、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△119百万円が含まれております。全社費用は、主にセグメントに帰属しない一般管理費等であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「その他」のセグメントにおいて、ムサシノ製薬株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第1四半期連結累計期間においては83百万円であります。なお、のれんは取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算出された金額であります。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間 (自 令和4年1月1日 至 令和4年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	衣料事業	インテリア産業資 材事業	エレクトロニク ス事業	ファイン ケミカル 事業	不動産 事業	計		
売上高								
顧客との契約から生じる収益	1,209	1,556	591	279	17	3,654	85	3,739
その他の収益	1	17	—	—	208	227	—	227
計	1,211	1,574	591	279	225	3,881	85	3,966

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車教習事業、ヘルスケア事業等が含まれております。

当第1四半期連結累計期間 (自 令和5年1月1日 至 令和5年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	衣料事業	インテリア産業資 材事業	エレクトロニク ス事業	ファイン ケミカル 事業	不動産 事業	計		
売上高								
顧客との契約から生じる収益	1,847	1,785	376	203	16	4,229	83	4,313
その他の収益	1	21	—	—	211	234	—	234
計	1,848	1,807	376	203	227	4,463	83	4,547

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車教習事業、ヘルスケア事業等が含まれております。